



門川町立草川小学校 校長室便り

令和6年度 第6号
令和6年9月9日

チームで一つの授業をつくりあげる

私に、「授業とは何か」、「教科書をどう分析し」、「何をどう教えていくのか」ということを、かなり厳しく叩き込んでくださった師匠が、最近退職されたと聞きました。先生は本物のプロでした。

20数年前、まだ私が駆け出しの頃の話になりますが、その師匠には、ほぼ毎日、国語科や算数科の授業のイロハについて厳しく指導を受けました。また、土曜日には、毎週のように一緒に酒を飲みながら、「教師とは」という話を聞かせていただきました。

当時、私は、とにかく授業が上手になりたいと、師匠の外にも、たくさん先輩に教えを乞いました。普段の先輩方は、いつも優しく、子どもに教えるように丁寧に教えてくださいました。

ところがです、研究授業の授業づくりになると一転、みんな人が変わったように鬼の形相で、ああでもない、こうでもない議論しながら、授業づくりをしたのを覚えています。怖かったです。

その後、「ゆとり教育」が提唱されたり、「働き方改革」が提唱されたりする中で、先生方がチームで一つの授業について、激論する姿は見られなくなってきました。

近年の「授業研究会」というと、誰か一人がほぼ一人で考えた授業を、反省会において、〇〇がよかったとか、〇〇すればよかった等の意見を出し合うだけの会になっていることが多く、寂しい気がしていました。

しかし、草川小は違いました。先生方が3チームに分かれ、議論を交わしながら、チームで一つの授業づくりが行われています。チームには、ベテラン、中堅、若手とバランス良く職員が配置されていて、とても楽しそうです。

こんな授業づくり研究会が行われている学校はめずらしく、このチームワークは、自慢です。

この授業研究会をとおして、先生方が益々授業力をつけ、授業中は人が変わり、絶対に妥協しない、本物のプロになっていって欲しいと願っています。



頼もしい保健委員会の子どもたち

残暑厳しい日が続きます。

7月に入ってからというもの、昼休みの運動場の気温は40度近くになるとともに、熱中症警戒アラートが出たり、学校で測定する熱中症指数が危険域に入ったりしています。そのため、毎日昼休みに運動場でどれくらい遊ばせられるかの判断をしなければなりません。

現在、ここで大活躍しているのが、保健委員会の子どもたちです。子どもたちは、熱中症警戒アラートが出ていないか、熱中症指数はどれくらいかを調べ、保健主事の先生、養護教諭の先生と相談し、毎日私のところへ「今日は運動場の遊びは中止にしたいと思いますがどうですか」や「今日は30分だけ水分をとりながら遊びたいのですがどうですか」などの案をもってきてくれます。

最後の責任は私にありますが、子どもたちが先生達と一緒に考え、毎日私のところに来てくれることが、とても嬉しく、とても頼もしく思っています。子どもたちの判断は的確で、安全に昼休みを過ごすことができています。子どもたちと先生方に感謝です。

【連載】小学校の先生「あるある」

- 書いた人が分からないものがあったても、クラスの子なら、字を見たら一瞬で誰が書いたものか分かる。
- いつも知らない間に、ズボンがチョークで汚れている。
- 昼休みに子どもたちとおにごっこをして遊ぶと、容赦なく集中攻撃を受けるため、地獄である。



充実している草川小HPへ
ぜひ、毎日閲覧してくださいね。

「QRコード」は、株式会社
デンソーウェーブの登録商
標です。